

岩波書店 世界歴史 戦後3回目の刊行

22:44 11月16日(火)

79%

www.iwanami.co.jp



HOME | お知らせ | 謹告 | 書店様へ | 会社案内採用情報 | お問い合わせ (英語) | English

書名 (かな) / 著者名 (かな) / ISBN

詳細検索

カート | ご注文方法

Google 検索

サイト内検索

単行本 シリーズ・講座・全集

岩波講座 世界歴史 第1巻
世界史とは何か

前回刊行から四半世紀——三〇〇名を超える執筆者を迎えて考究される世界史の新たな全容



著者	荒川 正晴 編集委員, 大黒 俊二 編集委員, 小川 幸司 編集委員, 木畑 洋一 編集委員, 富谷 至 編集委員, 中野 聡 編集委員, 永原 陽子 編集委員, 林 佳世子 編集委員, 弘木 雅士 編集委員, 安村 直己 編集委員
ジャンル	書籍 > 単行本 > 外国歴史 書籍 > シリーズ・講座・全集 > 岩波講座 世界歴史
シリーズ	岩波講座 世界歴史
刊行日	2021/10/05
ISBN	9784000114110
Cコード	0322
体裁	A5・上製・カバー・342頁
定価	3,520円
在庫	在庫あり

この商品に関するお知らせ

2021.10.05
『岩波講座 世界歴史』全巻構成
2021.10.05
『岩波講座 世界歴史』(全24巻) 刊行開始

ご注文方法

3,520円
(在庫あり)

カートに入れる

ネット書店で購入

Amazon
honto
e-hon 全国書店ネットワーク
紀伊國屋書店
セブンネットショッピング
HMV&BOOKS online
楽天ブックス
Honya Club.com
TSUTAYA online

試し読み

ツイート

いいね! 88

この本の内容

目次

著者略歴

人類の過去の営みを叙述することが、どのように生まれ、変容し、人々にとって政治的・教育的にどのような意味をもってきたのかを概観する。とりわけ日本社会における「世界史」の展開を、専門家だけでなく一般市民の歴史実践という観点から分析する。グローバル・ヒストリーやビッグ・ヒストリーの知見も取り入れた新しい「世界史」研究の全貌。

同じシリーズの書籍



ローマ帝国と西アジア 中華世界の盛衰 4世紀

「岩波講座 世界歴史」は、戦後3回目の刊行です。

第一期の全31巻は、高度経済成長と冷戦の只中であり、ヨーロッパ近代の歴史が未だ私たちにとってのモデルである、と考えられていた1969年という年に刊行されました。

巻構成は、世界の諸地域を古代・中世・近代・現代の時代区分によって、マス目状に明瞭

に整理しており、世界史を貫く基本法則が意識されていました。

これに対して第2期の全29巻は20世紀の終わりの1997年に刊行が始まりました。

冷戦が終結して国際平和が世界に実現するかに見える一方で、世界各地の地勢紛争が激化し、日本を含むいわゆる「先進国」の経済のゆきずまりが顕著になるといった、世界史の転換点の中で、改めて歴史を振り返ることが意識されていました。

巻構成については、研究の進展に伴って、世界共通の時代区分を行うことをせず、各地域をそれぞれの通時的な展開のありようによって区切るA系列の巻と、時代の特色を共時的、地域横断的にとらえるB系列の巻を設ける工夫がされました。

その後4半世紀の歳月をへて、世界の様子は激変し、歴史をめぐる研究や教育は大きく変化しました

歴史学について言えば、文字史料をはじめとする多様な史料から、歴史像を如何に実証的に解釈するかという方法が、コンピューター技術の応用と相まって格段に進化しました。

世界の各地域の史料が読み解かれ、(グローバル・ヒストリー)という名称でよばれるような世界の各地域の構造的なつながりを描く歴史が注目を集めるようになっていきました。

一方で人種・民族・ジェンダー・宗教・文化・国民国家というような概念と実態についてそれが歴史の中で形成され、変容されてきたものである、ということが明らかにされました。

こうした新しい史料読解、世界の構造的な把握、人々の世界理解や存在形態をめぐる再検討を組み合わせながら、世界諸地域の通時的な歴史叙述は、多様に深められています。

「岩波講座 世界歴史」、第3期の全24巻は次のような編集方針が立てられました。

第1に、すべての人に大学の授業のような研究の最前線を届けるという「岩波講座」の原点を大切に、明晰な内容になること、高等学校をはじめとする歴史教育や市民の歴史研究にも参考となるような編集を意識されました。

第2に、知りたいことを容易に調べられるように各巻が対象とする地域と時代をマトリクスによって示しました。

その際、地域というものの自体が歴史的に変遷してきたことを見つめるとともに、従来のシリーズで、視野の外に置かれがちであったアフリカやオセアニアの歴史についても目配りされました

第3に、グローバル・ヒストリーなどの世界の構造的把握について、それぞれの巻の論文が重視されるようになりました。

各巻は地域別の巻タイトルをつけていますが、単なる地域ではなく、その地域から見た「世界史」になっています。

そして、近世史や現代史など、特定の巻については、同時代を地域横断的に見る構成に。

第4に歴史像を深めていくと同時に、歴史を描く主体のありようを問い直すために、ジェンダーや文化の視点、マイノリティへのまなざし、そして、ここ日本列島で紡がれてきた歴史を世界史との繋がりから捉え直す、統合的な把握を各巻でなされ、各巻は分析対象のスケールが異なる3種類の論文から構成されています。

まず、巻頭には、対象地域、時代通史や概観を描く、(展望) 論文が置かれ、各館が単なる個別論文集にならないよう、この巻頭論文が対象とする歴史のパースペクティブ(見取図)を描いています。

次に、通史、概観の中で、特に大きな問題となるテーマについて掘り下げる(問題群) 論文が配置されています。

そして、さらに個別的なテーマを考察することで、時代像を補完して行く(焦点) 論文が続いています。

また、全ての巻において、歴史をより身近に感じられるようなコラムを配置され、この3種類の論文とコラムのために総勢400人近い執筆者が参画しています。

これからの私たちの改革を「未来」への道筋を考える時、

そもそも人類がどのようにこれまでの世界史を歩んできたかについて振り返ることが、欠くことのできない営みになる。

新しい「岩波講座 世界歴史」が、読者にとって、人と人とが総理解を重ねながら、「未来」を模索して行くことの大切さと可能性について、思索を巡らせることのできるような叢書になることが、願われております。

